文化財愛護
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書21

鳥取県東伯郡北条町（Hōjō）

郷土資料室

# 町内（Chōnai）遺跡発掘調査報告書

## 第 6 集

1997. 3

北条町教育委員会

0.2
j
)

鳥取県東伯郡北条町

# 町内遺跡発掘調査報告書

## 第　6　集

1997. 3

北条町教育委員会

# 序　　文

今日、我が国は経済発展が進み、経済的ゆとりの獲得という戦後からの目標を達成しつつある中で、新たな生活目標として文化水準の向上が求められるようになってきております。この流れにおいて地域の歴史、文化等の理解、そして文化意識向上の礎となる文化財を保護、解明していく立場として、本町においても日々努力しているところであります。

北条町は、鳥取県中部を流れる天神川の下流部西岸に位置する総面積21㎢の小さな町ですが、北条町遺跡分布図によりますと丘陵部を中心に600件もの遺跡が存在し、その分布密度は県下一となっております。しかしながら、現在も未踏査区域が広範囲に及ぶため、遺跡件数はその倍になるものと思われ、この地域の文化水準向上に直結する豊富な資源を地域文化に生かしていくことが私たちの責務であると考えております。

今回の調査は、北条町北尾、島地内丘陵部一帯で行われる県営島地区一般農道整備事業並びに土下字西張坪で行われる北条無線基地局建設工事に伴い、工事予定地内の遺跡の有無、範囲を確認するための試掘調査であり、北条町教育委員会が主体となり、事業主体者をはじめ地元関係者と綿密な連絡を取り合い協議を進めてきました。

調査にあたっては鳥取県埋蔵文化財センターのご指導をはじめ、地元作業員、その他調査関係者各位のご理解、ご協力をいただきました。その結果、島苅山遺跡の発見という成果を得るに至り、紙面からではありますが、深く感謝申し上げる次第であります。

これを契機としまして、本町の文化財保護に一層努力を重ねてまいる所存でありますので、今後とも関係各位のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

1997（平成９）年３月

鳥取県東伯郡北条町教育委員会
教育長　吉　田　俊　夫

# 例　　言

1　本報告書は、鳥取県東伯郡北条町教育委員会が、平成８年度に国と県から補助金を受けて実施した「町内遺跡発掘調査事業」の報告書である。

2　今年度の調査は、鳥取県東伯郡北条町島字苅山、岡、北尾字金部、大日、天王山、岸佛、宮谷、前防、釜谷、そして土下字西張坪でトレンチによる試掘調査を行い本報告書を作成した。

3　本報告書の執筆・編集は、調査員の討議のもと、清水、中原が行った。

4　本報告書に収載した遺構の実測図、図面作成、写真撮影及び遺物の実測、写真撮影、浄書は作業員の協力のもと、清水、中原、岸田が行った。

5　遺物番号は、本文・挿図・図版にわたって同じ番号を使用した。

6　図中の方位は、すべて磁北を示している。

7　出土遺物、実測図、写真は、北条町教育委員会が保管している。

# 本文目次

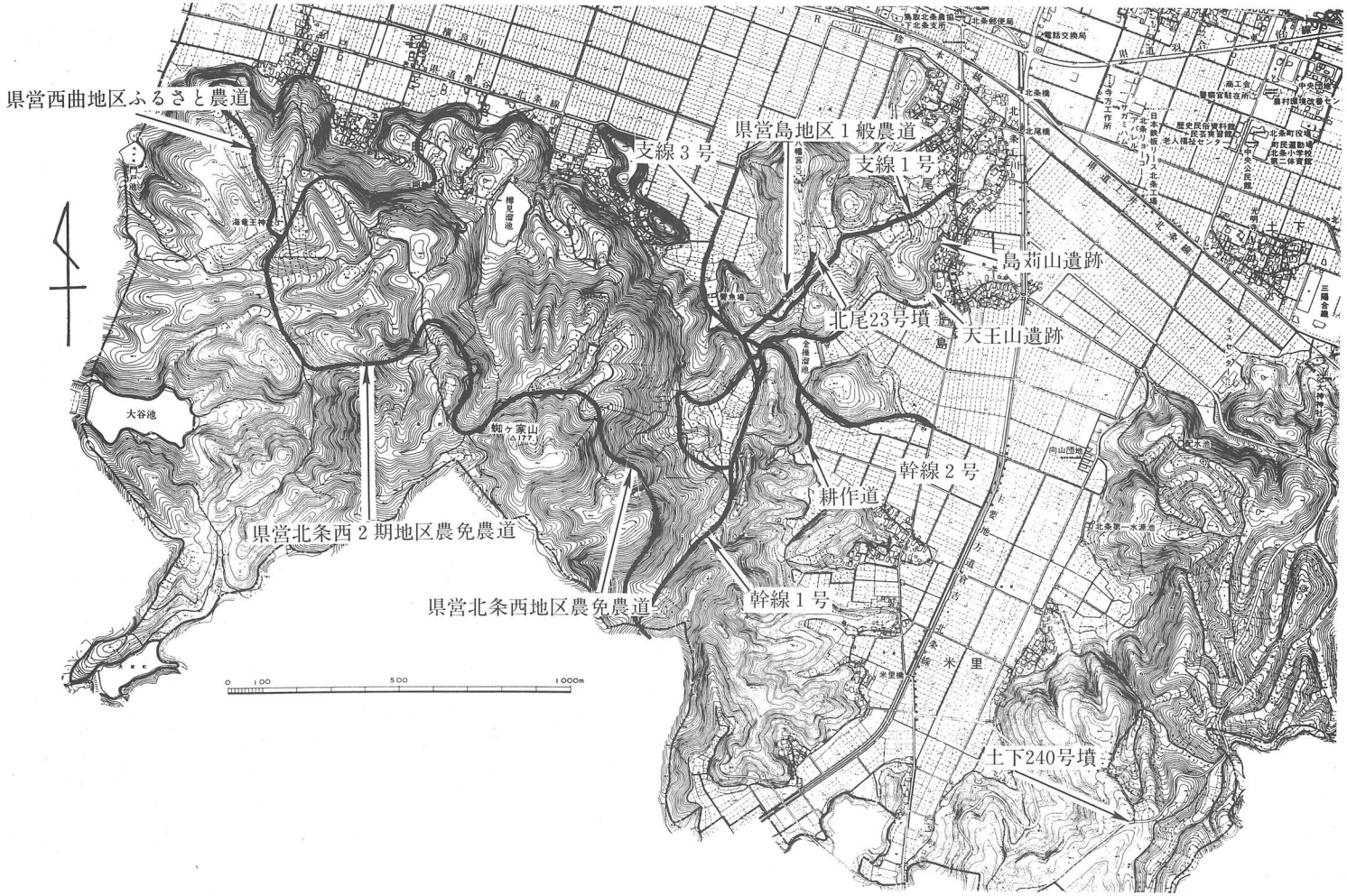
第１章　調査に至る経過……1
第２章　位置と環境……3
第３章　調査の概要……8
　1　北尾、島地区試掘調査……8
　2　北尾、島地区出土遺物一覧表……11
　3　土下地区試掘調査……13
　4　土下地区出土遺物一覧表……13
第４章　まとめにかえて……15

# 挿図目次

挿図１　蜘ヶ家山周辺農道整備事業路線計画図
挿図２　北条町内遺跡分布図……2
挿図３　土下地区トレンチ配置図……4
挿図４～５　北尾、島地区トレンチ配置図①②……5～7
挿図６～７　北尾、島地区トレンチ平断面図①②……10～11
挿図８　北尾、島地区出土遺物……12
挿図９　土下地区トレンチ平断面図……14
・報告書抄録……16

# 図版目次

図版１　県営島地区一般農道整備事業・島、北尾地区遠景・島、北尾地区Ｔ13断面・島、北尾地区Ｔ３－１・島、北尾地区Ｔ３－１遺物出土状況
図版２　島、北尾地区Ｔ11・島、北尾地区Ｔ12－２・土下地区Ｔ１
図版３　出土遺物




挿図１　蜘ヶ家山周辺農道整備事業計画図

# 第１章　調査に至る経過

本調査は、北条町島地区西部、北尾地内南部を占める丘陵地帯に、県営島地区一般農道整備事業に含まれる一路線である支線一号を設置することに伴い、工事主体者である鳥取県倉吉地方農林振興局地域整備課と本工事予定地内における埋蔵文化財の取扱いについて工事との調整を図るべく協議を行った結果、本工事予定地内には周知の遺跡が見られないものの「北条町内遺跡分布図」に示されるように天王山遺跡が近接することが確認されているためトレンチによる試掘調査を実施することになった。

また、なだらかな丘陵を呈する土下山の北西に日本海をのぞむ尾根上に位置し、果樹園畑地として土地利用されている土下字西張坪においても、北条無線基地局建設工事に伴い、工事主体者である中国セルラー電話株式会社と同様の協議を行った結果、「北条町内遺跡分布図」によると当地に土下240号墳の存在が示されており、また開墾前に古墳が存在していたとの土地所有者の証言からトレンチによる試掘調査を実施することになった。

そこで、文化財保護の立場から双方の事業において工事施工予定時期等と発掘予定箇所そして調査体制等を考慮しながら調整を図るよう互いに確認しあった上で、北条町教育委員会は鳥取県教育委員会とも協議を行い、工事予定地内の遺跡の有無、また分布範囲等を確認するため次のように調査団を編成し、北条町島字苅山、岡、北尾字金部、大日、天王山、岸佛、宮谷、前防、釜谷、そして土下字西張坪を平成８年８月から９月にかけて、国及び県の補助金を受けて町内遺跡発掘調査を行った。

平成８年度調査体制

調査主体　北条町教育委員会
　　教育長　吉田　俊夫

調査指導　鳥取県埋蔵文化財センター

調査担当　清水　直樹（担当、教育課社会教育係主事）
　　中原由香里

文化財保護委員　松本達之・宇田川　宏・西村勝義・日置粂左ヱ門・前田明範

事務指導　鳥取県教育委員会文化課

事務担当　樋口和夫（教育課社会教育係係長兼社会教育主事）

1．曲古墳群　2．土下古墳群　3．やすみ塚(土下213号墳)

4．茶臼山古墳群　5．北尾古墳群　6．島古墳群

7．島苅山遺跡　8．北尾遺跡　9．島遺跡

10．曲226号墳　11．船渡遺跡　12．米里銅鋌出土地

13．米里第1遺跡　14．米里第2遺跡　15．天神川河床遺跡

16．宇ノ塚遺跡　17．殿屋敷遺跡　18．馬場遺跡

19．用露鼻遺跡　20．長畑遺跡　21．茶臼山要害

22．中浜遺跡　23．下神1号墳　24．曲宮ノ前遺跡

挿図2　北条町内遺跡分布図

# 第2章　位置と環境

北条町は、鳥取県の中央部を流れる県内3大河川の1つ、天神川の下流域西岸に位置する東西約5.6km、南北約4.7km、総面積20.99km²の小さな町で、東は天神川を隔てて羽合町西は大栄町、南は倉吉市に接し、北には日本海がひろがっている。

本町を地理的見地にたってみると北部日本海側には本町をまたいで大栄町から羽合町まで東西12km、南北1.5kmの範囲に広がる北条砂丘、中央部には豊かな水田地帯を呈する北条平野、南部は標高70mの土下山及び標高171mの蜘ヶ家山に代表される丘陵地帯の3地域に分けることができる。

北条砂丘は、安山岩を基盤として約一万年前の大山噴火で堆積した火山灰、そして古砂丘が伏在し、その上に古代遺物の包含層で砂丘層の形成時期を決定する示準地層のクロズナ層があり、更に現在の新砂丘で覆われ形成されている。

北条平野は、天神川によって上流から運ばれてきた土砂が堆積することで形成された沖積平野で高低差が少なく平坦な地域であり、古くから北条田園ともいわれた穀倉地帯の姿が今日にも見られる。

土下山、蜘ヶ家山そして茶臼山に代表される丘陵地帯はなだらかな原野で県下有数の古墳密集地として知られており、藩政時代は周辺村落の所有する入会採草地が入り組んでいたが、明治以降の桑園化、近年における樹園地化によりこれらの古墳は破壊され、当時の様子を忠実に解明するには困難を極める状況となっている。

本町の遺跡分布状況を砂丘地、平野部、丘陵地の3地域別に見てみることにする。

砂丘地では、隣町の羽合町から全国的に有名な古墳時代の砂丘遺跡、長瀬高浜遺跡が発見されているが、本町からは江北浜北野神社付近の河川工事の際に土師器、須恵器のほかに土馬、銅鏡、鎧片など貴重な遺物が砂丘地の小丘部で確認されている。また、北条砂丘西寄りに位置する下神三輪山の採砂場からは弥生式土器、土師器片が出土していることから、砂丘地は弥生時代から古墳時代にかけて人々の生活の場であったことがうかがえる。

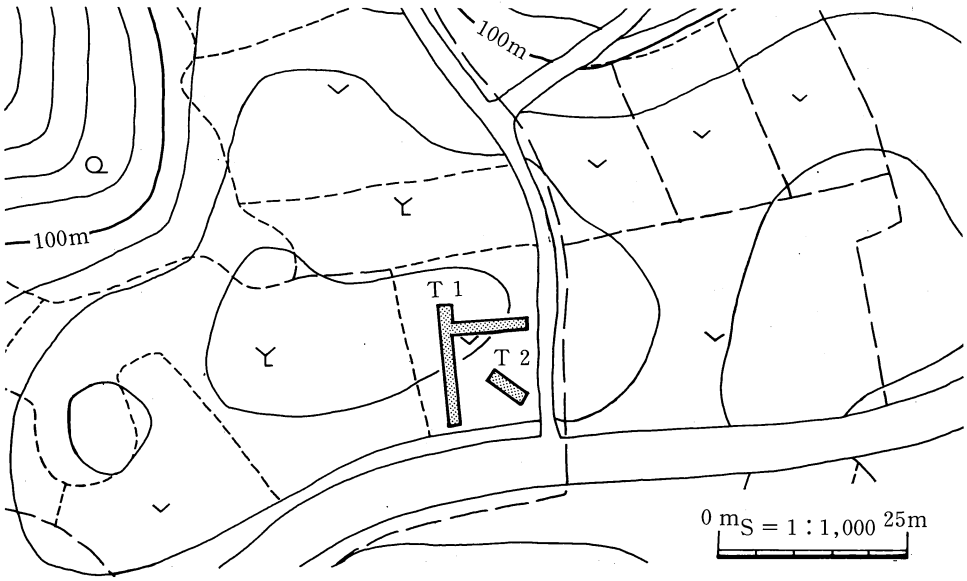
平野部においては、縄文時代前期から晩期にかけての島縄文遺跡、米里船渡遺跡がみられる。島縄文遺跡は昭和27年（1952）、北条川の排水機能を高めるため河川改修工事を行った際、縄文時代前期から晩期にまたがる土器をはじめ、黒曜石の石鏃、石錘などの石器ニホンシカ、イノシシを主とした動物骨格片が発見されている。次いで昭和58年（1983）、当地において災害復旧工事に伴う発掘調査を行ったところ、縄文土器の他に丸木船、縄文中期のヤマトシジミを中心とした上層、縄文前期のマガキ、ハマグリ、イソシジミを中心とした下層の2層に分けられる貝塚が発見されていることから、当時の生活は狩猟及び漁業によって営まれていたことが容易に想像できる。また、米里船渡遺跡では水田下より、

ひきりうす、大足などの木器をはじめとして、住居の用材とみられる木製品、また周辺の畑地からは縄文土器片が検出されている。平野部と丘陵部の境界にあたる地域に位置する島、船渡の両地区において漁業、猟狩が当時主な生活手段であったことは、貝塚、丸木船の存在のほか、北条平野が当時、縄文海進によってラグーンが形成されており、このラグーンに面した湖岸に当地域が位置していた事実からもあてはめることができよう。

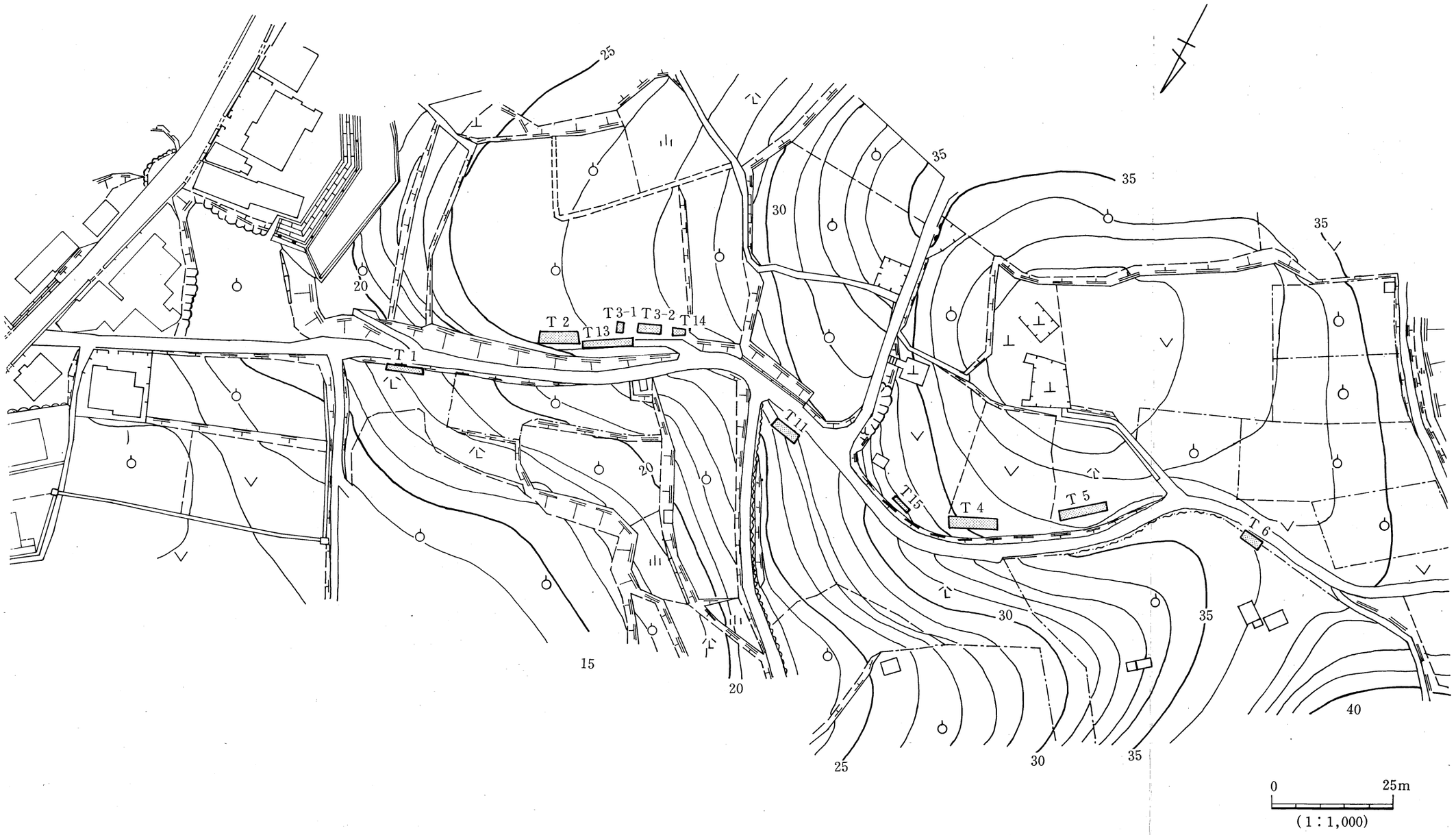
また、北条平野全域にわたって条里遺溝の埋没が確認されており、四ノ坪、大坪等の数詞坪付地名が残っていることから、今日に見られる大水田地帯の姿は奈良時代から形成されていたと考えられる。

丘陵部には、遺跡分布図に示されるように、茶臼山を中心に位置する茶臼山古墳群（約55基)、土下山に位置する土下古墳群（約270基)、蜘ヶ家山の周辺に位置する曲古墳群（約230基)、北尾古墳群（約25基)、島古墳群（約６基）などが存在し、古墳の密集地として県下有数の地域である。これら丘陵部に位置する古墳の年代は出土遺物から古墳時代に入ってからのものであり、その多くは円墳であるが前方後円墳、方墳もみられる。その中でも、土下古墳群に含まれる210号墳及び213号墳から全国的にも貴重な鹿埴輪、鹿の子模様の入った人物埴輪が出土したことから、当地の古墳時代における繁栄の姿がうかがえる。また、ここより200m離れて終末期の横穴石室が露見しており魚の線刻も確認されている。

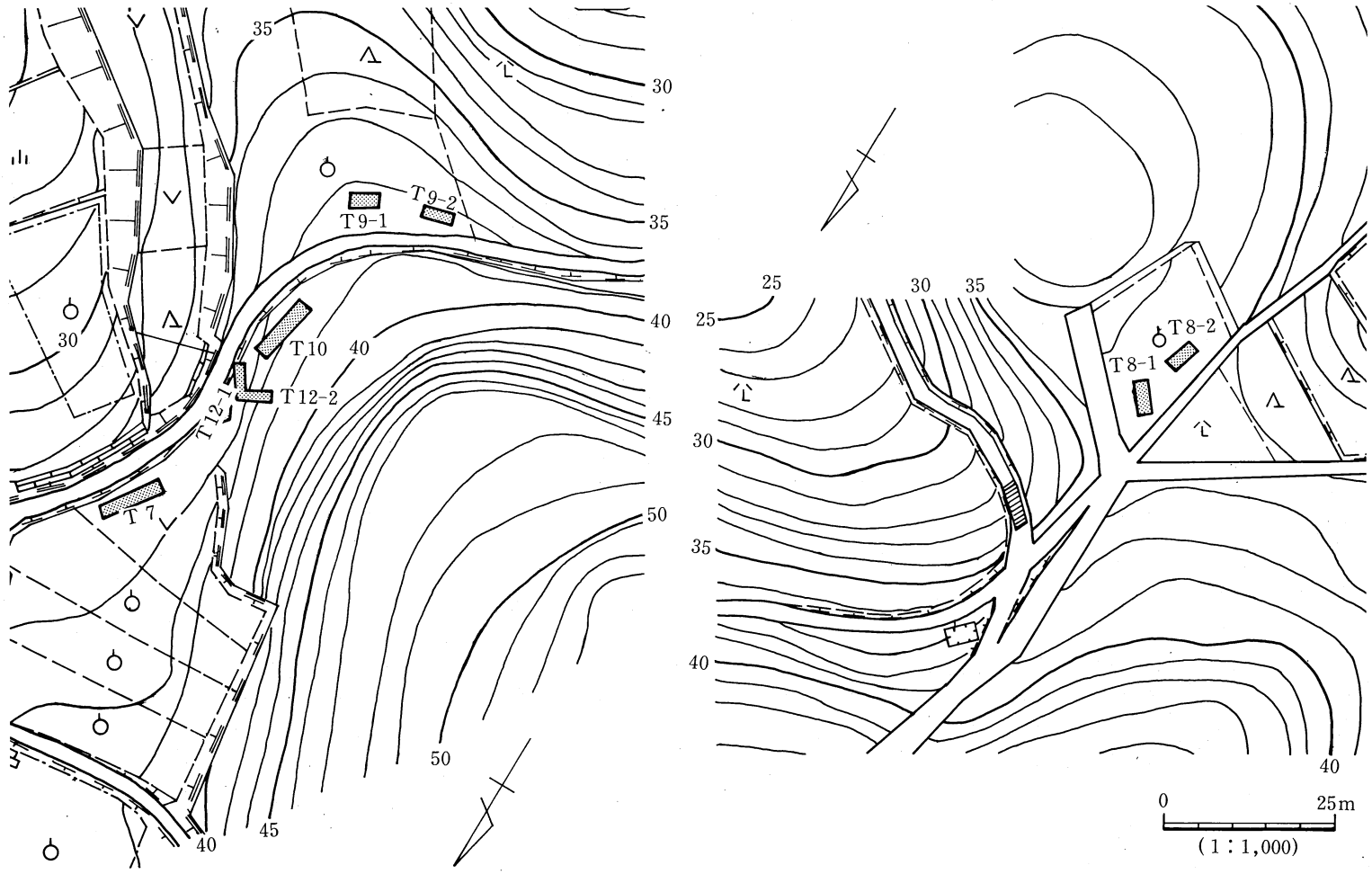
今回調査を行った北尾、米里の両区域は、上記の地域区分ではいづれも丘陵部に位置し、北尾は天王山遺跡が近接、米里は周知の古墳（240号墳）ということで地域の歴史事実を解明するうえで重要な手がかりになるものと思われる。




挿図３　土下地区トレンチ配置図




挿図４　北尾、島地区トレンチ配置図①




挿図5　北尾、島地区トレンチ配置図②

# 第３章　調査の概要

## １　北尾、島地区試掘調査（島苅山遺跡）

この調査は、北条町北尾字金部から北尾字釜谷までの農道を、県営島地区一般農道整備事業に含まれる支線１号整備事業として道路幅拡張などが計画されているため、現在の道路沿いのそれぞれの地形に合わせて幅0.5～２m、長さ1.85～10.5mのトレンチ（T）を15本（Ｔ１～15　199.87m²）設定し、遺路の有無とその範囲の確認を行った。

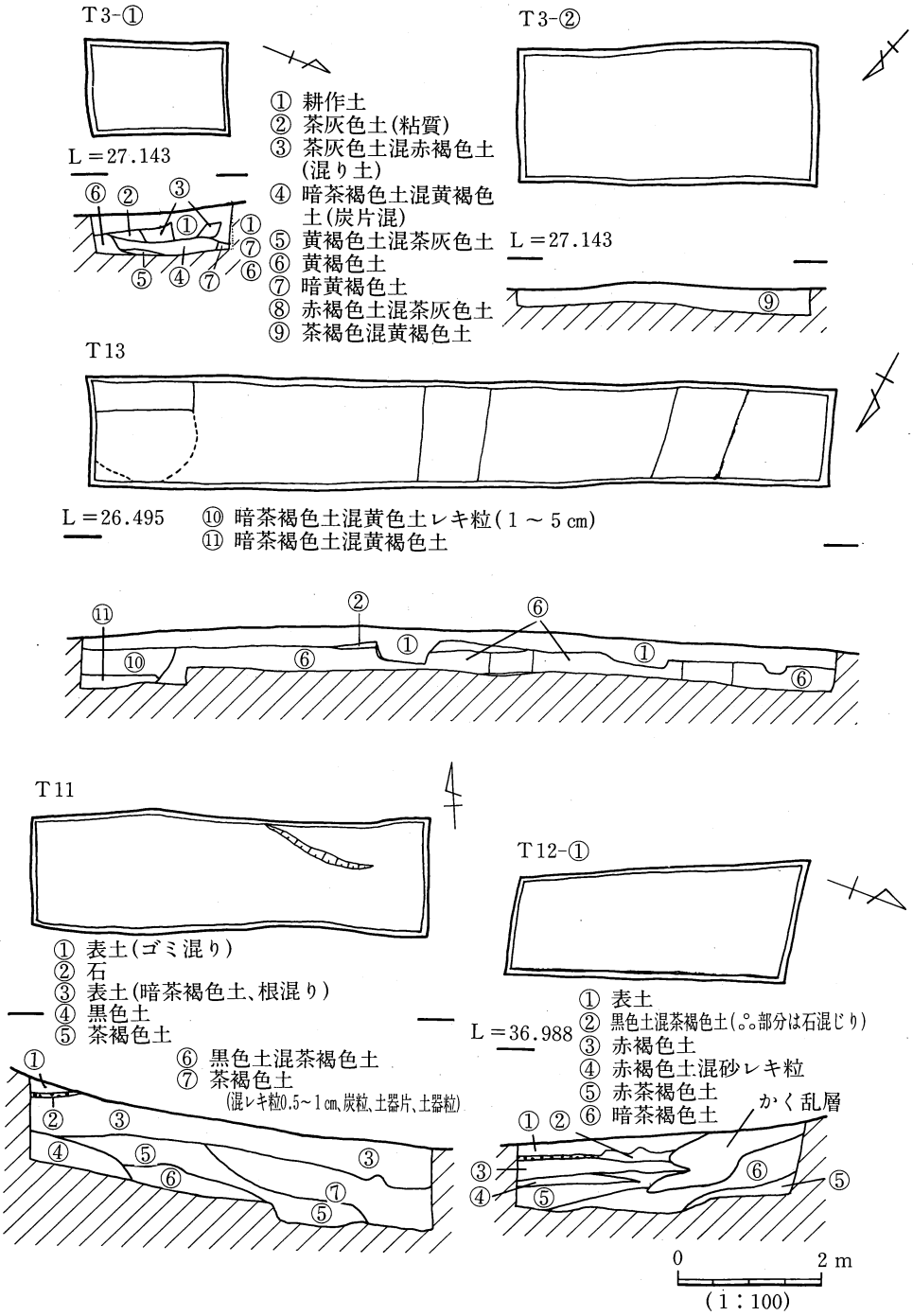
その結果、北条町島字苅山の柿畑に設定したＴ３－１からはピット、Ｔ13からは住居跡の断面が検出された。（島苅山遺跡）その他のトレンチから遺構は検出されなかった。

各トレンチの発掘調査の結果は各トレンチ調査一覧表（Ｐ８～９）及び各トレンチ実測図のとおりである。

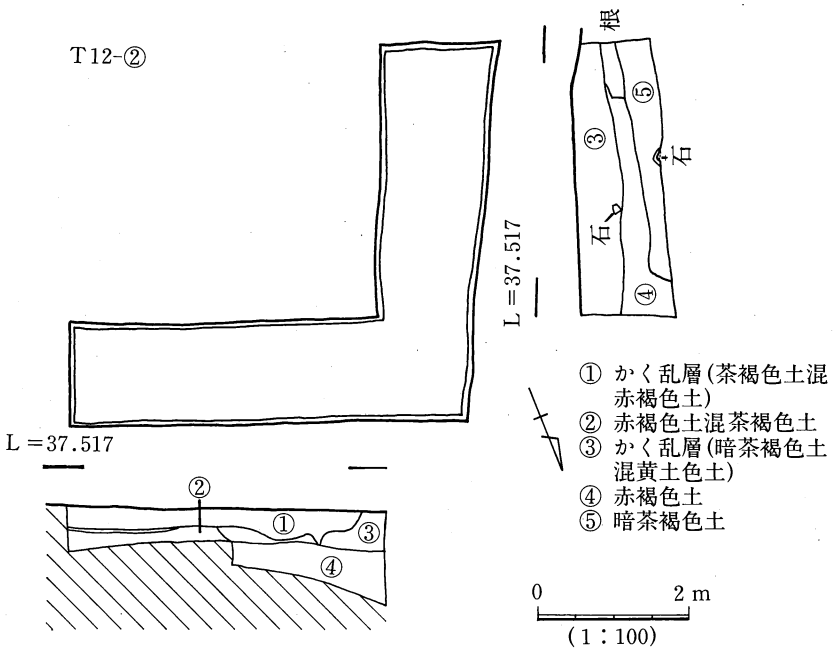
《各トレンチ調査状況一覧表》

| トレンチ番号 | 挿図番号 | 図版番号 | 深さ(cm) | 面積(m²) | 土層堆積等調査状況 | 出土遺物・遺構 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ｔ１ | | | 25 | 8<br>(1×8) | ①茶褐色土 | 土師器片２、須恵器片１ | |
| Ｔ２ | | | 75～110 | 15.3<br>(8.5×1.8) | ①茶褐色土混黄褐色土<br>②暗茶褐色土混暗黄褐色土 | 土師器片５～６個出土<br>須恵器片２ | |
| Ｔ３① | 6 | 1 | 70 | 2.22<br>(1.2×1.85) | ①耕作土<br>②茶灰色土（粘質）<br>③茶灰色土混赤褐色土（まざり土）<br>④暗茶灰色土混黄褐色土（炭片混）<br>⑤黄褐色土混茶灰色土<br>⑥黄褐色土<br>⑦暗黄褐色土<br>⑧赤褐色土混茶灰色土 | 土師器甕口縁部完形１点<br>土師器片多数<br>ピット１<br>住居跡 | |
| Ｔ３② | 6 | | 22～40 | 7.38<br>(1.8×4.1) | ①茶褐色混黄褐色土 | 土師器片５～６個出土 | |
| Ｔ４ | | | ８～80 | 20<br>(2×10) | ①表土<br>②茶褐色土<br>③暗茶褐色土（固い粘土質）<br>④黄褐色土混茶褐色土 | | |
| Ｔ５ | | | 35～50 | 18<br>(1.8×10) | ①表土 | | |
| Ｔ６ | | | 50 | 8<br>(4×2) | ①耕作土<br>②暗茶褐色土 | | |
| Ｔ７ | | | 75～88 | 20<br>(2×10) | ①表土<br>②赤色土混砂粉（0.5～３mm大）<br>③灰緑色土（粘土質） | 土師器片２個 | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| T 8① | | | 50～<br>70 | 10<br>(5×2) | ①茶褐色土（耕作土）<br>②黄褐色土（地山） | | |
| T 8② | | | 53～<br>73 | 10<br>(5×2) | ①茶褐色土（耕作土）<br>②黄褐色土（地山） | | |
| T 9① | | | 14～<br>27 | 10<br>(2×5) | ①赤色土混砂粒<br>（0.5～5㎜大） | | |
| T 9② | | | 15～<br>28 | 9<br>(1.8×5) | ①赤色土混砂粒<br>（0.5～5㎜大） | | |
| T10 | | | 35～<br>63 | 20<br>(2×10) | ①赤色土混砂粒<br>（0.5～3㎜大） | | |
| T11 | 6 | 2 | 103～<br>140 | 11.2<br>(2×5.6) | ①表土（ゴミ混り）<br>②石<br>③表土（暗茶褐色土、根混り）<br>④黒色土<br>⑤茶褐色土（土器片混り）<br>⑥黒色土混茶褐色土<br>⑦茶褐色土<br>（混レキ粒0.5～1㎝炭粒土器片・土器粒） | 弥生土器口縁1つ<br>底部1つ<br>土師器片多数 | |
| T12① | 6 | | 73～<br>106 | 5.6<br>(4×1.4) | ①表土<br>②黒色土混茶褐色土<br>（品部分は石混り）<br>③赤褐色土<br>④赤褐色土混砂レキ粒<br>⑤赤茶褐色土<br>⑥暗茶褐色土 | すり石1個<br>須恵器片2個 | |
| T12② | 7 | 2 | 45～<br>125 | 13.88<br>(4.2×1.4<br>+5×1.6) | ①かく乱層<br>（茶褐色土混赤褐色土）<br>②赤褐色土混茶褐色土<br>③かく乱層<br>（暗茶褐色土混黄土色土）<br>④赤褐色土<br>⑤暗茶褐色土 | | |
| T13 | 6 | 1 | 55～<br>80 | 5.25<br>(10.5×0.5) | ①耕作土（茶褐色土）<br>②茶灰色土<br>③黄褐色土（地山）<br>④暗茶褐色土混黄色土レキ粒（1～3㎝）<br>⑤暗茶褐色土混黄褐色土 | 土師器片15個 | |
| T14 | | | 53～<br>80 | 3.04<br>(0.8×3.8) | ①暗茶褐色土<br>②暗茶褐色土混黄褐色土<br>③黄褐色土混茶褐色土 | | |
| T15 | | | 7～<br>27 | 3<br>(2.5×1.2) | ①表土（茶褐色土） | 土師器片5個<br>須恵器片5個 | |



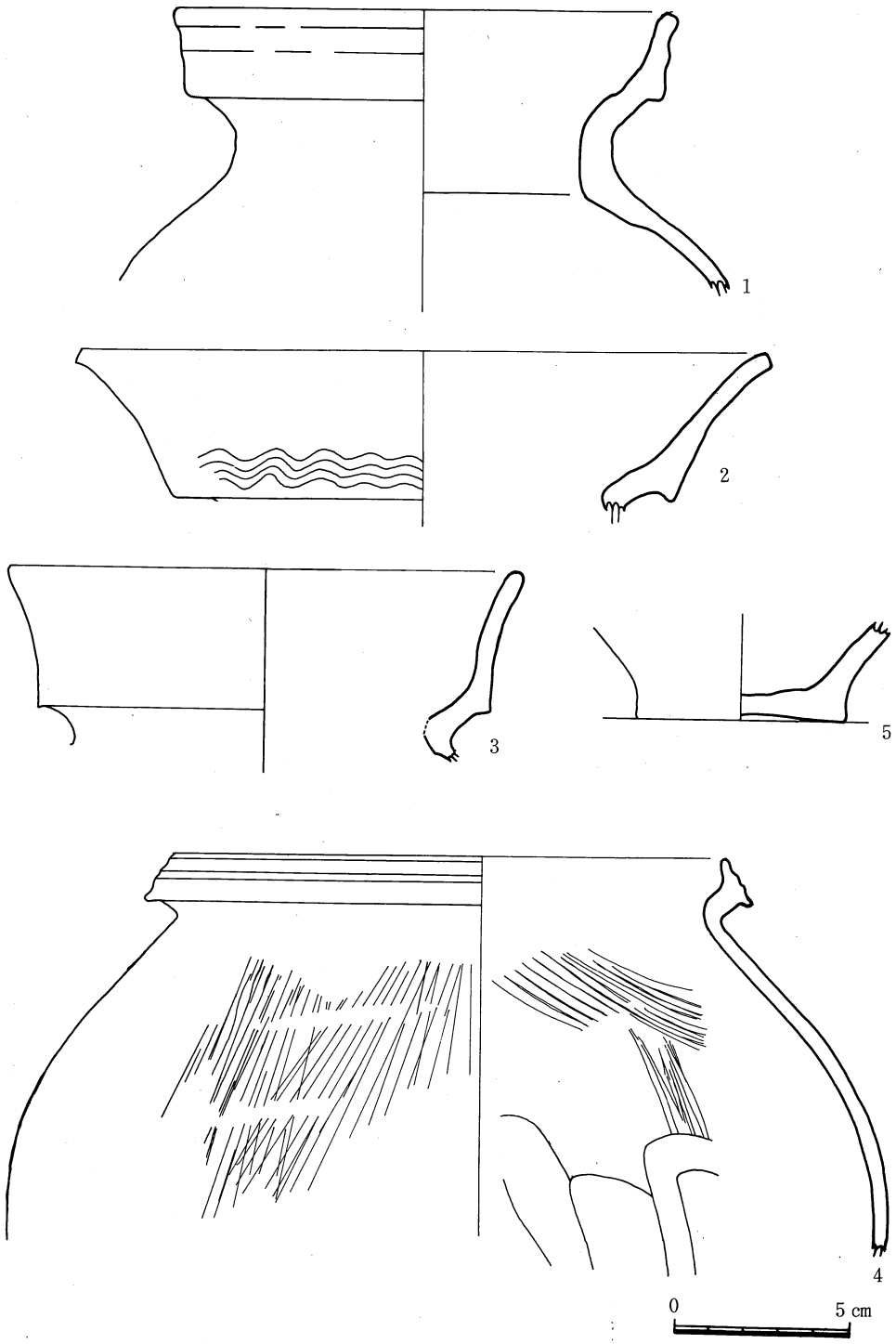

挿図6　北尾、島地区トレンチ平断面図（その1）




挿図７　北尾、島地区トレンチ平断面図（その２）

## 2　北尾・島地区出土遺物一覧表

| 遺物番号 | 名称 | 出土場所 | 挿図 | 図版 | 法量(cm) | 時代 | 形態 | 手法 | 焼成 | 色調 | 胎土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器・カメ | T３－① | 8 | 3 | 復口径13.8cm | 弥生後期 | 口縁部は厚めでやや外反り気味に外傾し、端部は厚く丸い。長めの頸部がしっかりしており、体部とちゅうで薄くなる。 | 口縁部外面は擬凹線を施す。頸部から体部にかけての外面、口縁部から頸部にかけての内面はナデ。体部内面は、右方向へのケズリが入る。 | 良好 | 淡茶褐色土 | １～３㎜の石粒含む |
| 2 | 土師器器台上部 | T３－① | 8 | 3 | 復口径19.6 | 古墳前期初頭 | 口縁部は外側に外反しており、端部は角はり平坦である。頸部は太めと思われる。 | 口縁部内面および頸部の外面はナデ。口縁部外面は、上部約４条下部４条の波状文を施す。 | 良好 | 茶褐色土に赤色の彩色跡(表裏両面)が見られる。 | １㎜未満の砂粒と１～３㎜の石粒含む |
| 3 | 土師器・カメ | T３－① | 8 | 3 | 復口径14.4 | 古墳前期初頭 | 口縁部はやや外傾して外側に開いている復合口縁。端部は丸味がある。 | 口縁部内面および頸部の外面ナデ。口縁部外面に約13条の波状文を施す。 | 良好 | 淡茶褐色土 | ２㎜前後の砂粒含む |
| 4 | 九弥生土器・カメ | T11 | 8 | 3 | 復口径17.6 | 弥生前期 | 口縁部は短く、内傾しており、擬凹線を施している。上下の端部は丸味を帯びている。頸部から体部まで緩やかに膨み、器厚は薄い。 | 口縁部内面ナデ、口縁部外面擬凹線、内面頸部左上方から右下方へ向かってのナナメハケ目。内面肩部下方から上方へ向かってのヘラケズリ。外面体部タテ・ハメ目 | 良好 | 淡黄茶色 | １～２㎜の砂粒含む |
| 5 | 土師器・底部 | T11 | 8 | 3 | 底部径長径6短径5.6 | 不明 | 底部はやや楕円形を呈しており、少し上げ底気味。端部は丸みを帯び、少しくびれた上、直線的に斜め上方へ延びる。やや薄めの器厚 | 内外面ナデ | 良好 | 外面は茶褐色<br>底部内外面は黒色 | １㎜弱の砂粒含む |




挿図８　北尾、島地区出土遺物

## 3　土下地区試掘調査（土下240号墳）

この調査は、北西に日本海を望む土下山の尾根上に位置する北条町土下字西張坪に計画された北条無線基地局建設工事に伴う試掘調査で幅1.5m、長さ5.1～16mのトレンチを２本設定し、遺跡の有無等の確認を行った。その結果Ｔ１・Ｔ２を覆い囲む形で周溝が検出された。

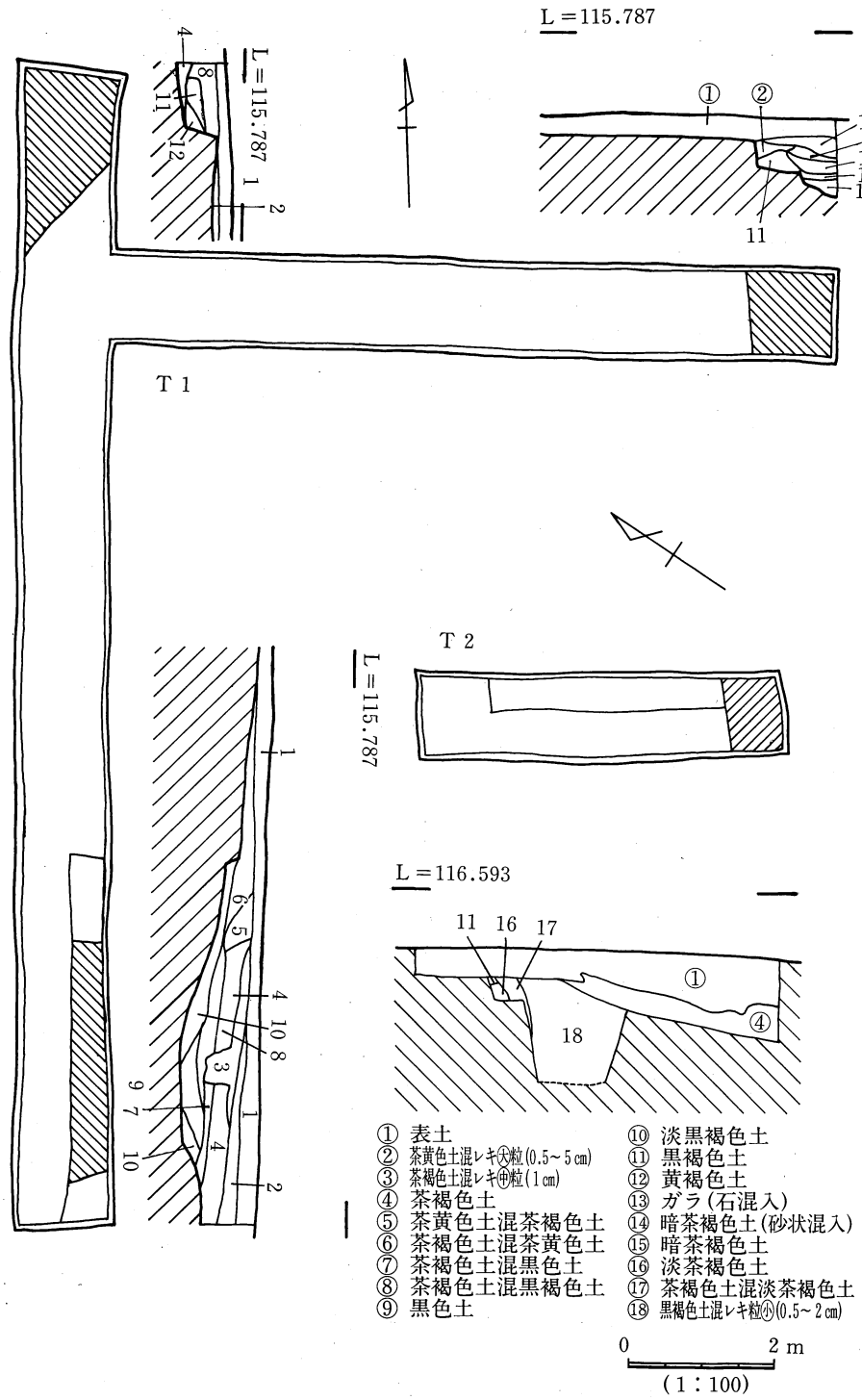
トレンチの発掘調査の結果は、各トレンチ調査一覧表及びトレンチ実測図のとおりである。

《各トレンチ調査状況一覧表》

| トレンチ番号 | 挿図番号 | 図版番号 | 深さ(cm) | 面積(m²) | 土層堆積等調査状況 | 出土遺物・遺構 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 9 | 2 | 18～110 | 34 (10×1＋16×1.5) | ①表土<br>②茶黄色土混レキ㊦粒(0.5～5cm)<br>③茶褐色土混レキ㊥粒(1cm)<br>④茶褐色土<br>⑤茶黄色土混茶褐色土<br>⑥茶褐色土混茶黄色土<br>⑦茶褐色土混黒色土<br>⑧茶褐色土混黒褐色土<br>⑨黒色土<br>⑩淡黒褐色土<br>⑪黒褐色土<br>⑫黄褐色土<br>⑬ガラ（石混入）<br>⑭暗茶褐色土（砂状混入）<br>⑮暗茶褐色土 | 土師器片１ | |
| 2 | 9 | | 35～185 | 6.6 (1.3×5.1) | ①表土<br>②茶褐色土<br>③黒褐色土<br>④淡茶褐色土<br>⑤茶褐色土混淡茶褐色土<br>⑥黒褐色土混レキ粒㊦(0.5～2cm) | | |

## 4　出土遺物一覧表

| 遺物番号 | 名称 | 出土場所 | 挿図 | 図版 | 法量(cm) | 時代 | 形態 | 手法 | 焼成 | 色調 | 胎土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器片 | Ｔ１ | | 3 | 縦横約1cm四方 | 不明 | 擬凹線が施されている。 | | 良好 | 淡黄褐色 | 約２mmの砂粒含む |




挿図9　土下地区トレンチ平断面図

# 第４章　まとめにかえて

平成８年度は、県営島地区一般農道整備事業及び北条無線基地局建設工事に伴う試掘調査において、北尾・島地区15本、土下地区２本の計17本のトレンチを設定し、遺跡の有無や範囲を確認した。

北尾・島地区では、これまで遺物散布地として北条町内遺跡分布図に示めされる天王山遺跡近接して位置する島字苅山に設定したＴ３－１よりピット、Ｔ13より住居跡と思われる落ち込みが断面によって検出された。またＴ３－１、Ｔ13では多数の土師器片が出土している。Ｔ11では多量の土師器片が出土したが、断面の状況、丘陵上に天王山遺跡が存在することから流れ込みと推測される。Ｔ12は石室らしき列石が露出していたことから設定し調査を行ったが、人為的な石組はなされておらず周辺に遺溝も検出されなかった。さらに土中からは家屋の廃材が確認されたことから、列石は石室ではなく廃材と共に放置されたものと思われる。Ｔ１～Ｔ３、Ｔ15の各トレンチについては遺物が少数出土したが遺構が検出されなかったため、Ｔ11と同等に流れ込みによるものと思われるので遺跡はないものとする。

土下字西張坪地区では、Ｔ１、Ｔ２から周知の古墳として北条町内遺跡分布図に示される土下240号墳のものと思われる周溝が確認された。しかしながら畑地として土地利用されているため、地山を削ってトレンチャーが南北に向かって無数に入っており、周溝が撹乱されている部分が多く見られた。また、周溝の様子から主体部が存在すると推測される場所の確認を行ったが、主体部は検出するに至らなかった。遺物については土師器片を１点のみ検出しただけであった。

今回の試掘調査は、道路予定地内が大部分を示めたため、限られた範囲での調査となったが、土中の状況が不明となっていた天王山遺跡の範囲内において住居跡を発見するに至り、新たに島字苅山周辺を天王山遺跡と分別し、島苅山遺跡とした。島苅山遺跡、土下240号墳共に未だ全体像がつかめていないため、今後の発掘調査の成果が期待される。

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ちょうないいせきはっくつちょうさほうこくしょだい6しゅう（しまかりやまいせき、はした240ごうふん） |
| 書名 | 町内遺跡発掘調査報告書第6集（島苅山遺跡、土下240号墳） |
| 副書名 | |
| 巻次 | 第6集 |
| シリーズ名 | 北条町埋蔵文化財報告書 |
| シリーズ番号 | 21 |
| 編著者名 | 清水直樹　中原由香里 |
| 編集機関 | 北条町教育委員会 |
| 所在地 | 〒689－21　鳥取県東伯郡北条町土下112　TEL0858-36-3111 |
| 発行年月日 | 西暦1997年3月19日 |

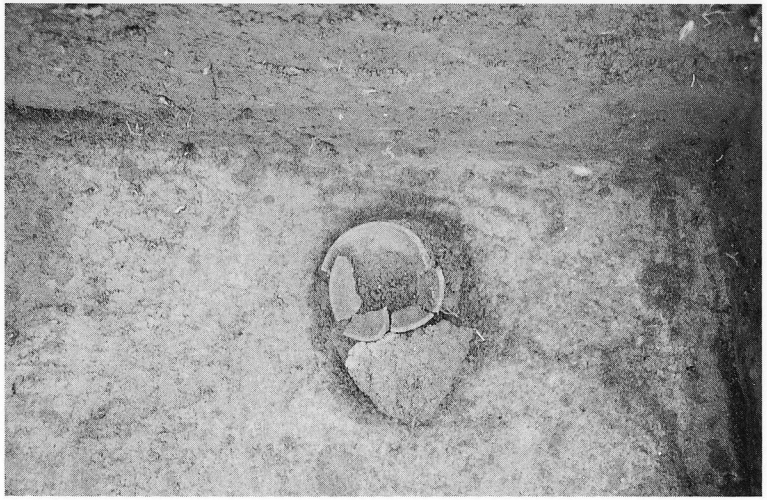
| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>m² | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| しまかりやまいせき<br>島苅山遺跡 | 北条町島字苅山 | 31366 | | 35°28′35″ | 133°48′51″ | 199608～199609 | 199.87m² | 県営島地区一般農道整備事業に伴う事前調査 |
| はした240ごうふん<br>土下240号墳 | 北条町土下字西張坪 | 31366 | | 35°27′30″ | 133°49′16″ | 199608～199609 | 40.6m² | 北条無線基地局建設工事に伴う事前調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 島苅山遺跡 | 住居跡等 | | 竪穴住居跡約2棟 | カメ　4つ | |
| 土下240号墳 | 古墳 | | 周溝 | 土師器片　1つ | |

# 図　　版

島、北尾地区Ｔ３－１（北から）

県営島地区一般農道整備事業・島、北尾地区遠景（東から）

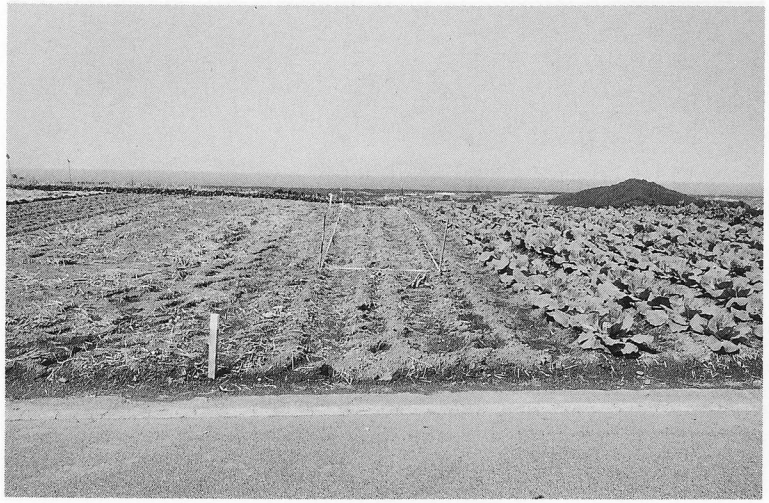


島、北尾地区Ｔ３－１遺物出土状況

島、北尾地区Ｔ13断面（北面から）

図版１

# 図版 2



土下地区Ｔ１（南から）

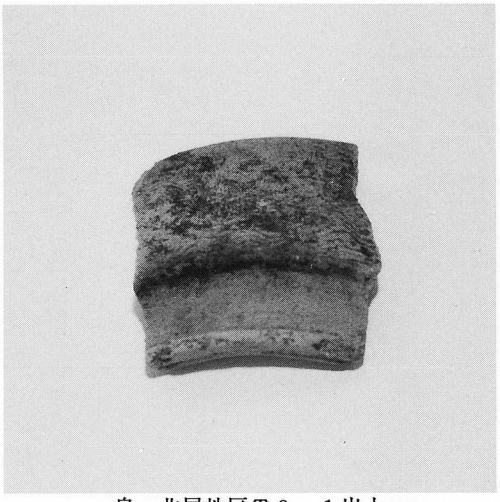
島、北尾地区Ｔ11（西から）

土下地区Ｔ１（南から）

島、北尾地区Ｔ12－２（北西から）

島、北尾地区Ｔ３－１出土

島、北尾地区Ｔ３－１出土



島、北尾地区Ｔ３－１出土

島、北尾地区Ｔ11出土

島、北尾地区Ｔ11出土

土下地区Ｔ１出土

平成９年３月印刷
平成９年３月発行

北条町埋蔵文化財報告書21

町内遺跡発掘調査報告書第６集

編集　鳥取県東伯郡北条町土下112
発行　北条町教育委員会

印刷　鳥取県東伯郡羽合町長瀬818-１
製本　勝美印刷㈱鳥取支店